



黄金の森

2024年6月21日発行
南風原町立 南風原中学校
発行者 校長 比嘉智也
校長だより第6号

【教育目標】 目標を持ち自ら学ぶ生徒 心豊かで思いやりのある生徒 心身ともに健康で忍耐力のある生徒

戦後79年 平和について考えよう！

6月23日は「慰霊の日」。沖縄では条例で定められた休日になっています。(今年は日曜日)
ここ沖縄では、日本で唯一地上戦が行われました。沖縄戦では、20万人をこえる戦死者、
その中で9万4000人余りが一般県民や子どもとなっています。そのため、慰霊の日は沖縄県民にとって特別な日なのです。このような悲惨な戦争を二度と起こさないためにも、
戦後79年になりましたが、この機会に平和について考えてみましょう。



沖縄全戦没者追悼式 「平和の詩」

23日の沖縄全戦没者追悼式で朗読される「平和の詩」に、県立宮古高校3年の仲間友佑(ゆうすけ)さん(18)＝宮古島市＝の作品「これから」が選ばれました。

「これから」
県立宮古高等学校三年 仲間友佑

短い命を知ってか知らずか
蝉が懸命に鳴いている
冬を知らない叫びの中で
僕はまた天を仰いだ

あの日から七十九年の月日が
流れたという
今年十八になった僕の
祖父母も戦後生まれだ
それだけの時が
流れたというのに

あの日
短い命を知るはずもなく
少年少女たちは
誰かが始めた争いで
大きな未来とともに散って逝った

大切な人は突然
誰かが始めた争いで
夏の初めにいなくなつた
泣く我が子を殺すしかなかった
一家で死ぬしかなかった
誰かが始めた争いで
常緑の島は色を失くした
誰のための誰の戦争なのだろう
会いたい、帰りたい
話したい、笑いたい
そういくら繰り返そうと
誰かが始めた争いが
そのすべてを奪い去る

心に落ちた
暗い暗い間はあの戦争の副作用だ
微かな光さえも届かぬような
絶望すらもないような
怒りも嘆きも失くしてしまいたいような
深い深い奥底で
懸命に生きてくれた人々が
今日を創った
今日を繋ぎ留めた
両親の命も
僕の命も
友の命も
大切な君の命も
すべて

心に落ちた
あの戦争の副作用は
人々の口を固く閉ざした
まるで
戦争が悪いことだと
言ってはいけないのだと
口止めするように
思い出したくもないほどの
あの惨劇がそうさせた

僕は再び天を仰いだ
抜けるような青空を
飛行機が横切る
僕にとってあれは
恐れおののくものではない
僕らは雨のように打ちつける
爆弾の怖さも
戦争の「せ」の字も知らない
けれど、常緑の平和を知っている
あの日も
海は青く
同じように太陽が照りつけていた
そういう普通の中になだ
平和が欠けることの怖さを
僕たちは知っている

人は過ちを繰り返すから
時は無情にも流れていくから
今日まで人々は
恒久の平和を祈り続けた
小さな島で起きた
あまりに大きすぎる悲しみを
手を繋ぐように
受け継いできた

それでも世界はまだ繰り返してる
七十九年の祈りでさえも
まだ足りないというのなら
それでも変わらないというのなら
もっともっとなんか
僕らが祈りを繋ぎ続けよう
限りない平和のために
僕ら自身のために
紡ぐ平和が
いつか世界のためになる
そう信じて

今年もこの六月二十三日を
平和のために生きている
その素晴らしさを噛みしめながら

祖父母も戦後生まれの仲間さんは、知らなかった沖縄戦について学び、平和のため自分に何ができるかを詩につづりました。仲間さんの詩には、審査員から「戦争と向き合い、平和のために自分は何をしていきたいのかを力強く訴えていた。倒置による余韻や美しくも鋭い表現が大変印象的な作品だった」と言うコメントとともに高く評価されました。



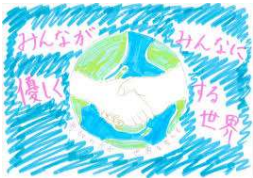
「平和をいのって」
那覇市立天久小学校5年
知念由依さんの作品
全戦没者追悼式冊子表紙に掲載



「雲一つない青空の下で」
県立開邦中学校3年
島袋莉安さんの作品
全戦没者追悼式パンフレット掲載

今でも世界では、戦争や紛争が続いている国や地域があります。皆さんも、今一度平和について真剣に考え、自分なりにできることに取り組んでみてはどうでしょう。

身近な「平和」とは？



「平和」とは一体何でしょうか？

争いや戦争がないこと。いじめや暴力、犯罪、貧困、飢餓がないこと。

安心して学校へ行くこと、勉強すること、遊ぶこと、食べること。

今、私たちが当たり前のように過ごしているこうした日常も「平和」なのです。

世界中のどこの国も「平和」であるためには、今必要なことは何でしょう？

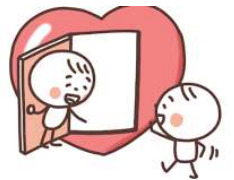
自分の考えを伝えること、相手の考えを受け入れること、つまりお互いの心を開くことではないでしょうか？

人間は言葉をもっています。心を開けば対話も生まれ、対話があれば争いも起きないのではないのでしょうか？

そして、自分だけでなくまわりの人のことを思いやること、まわりと仲良くすることが、身近な「平和」のために私たちができることではないのでしょうか？

私たちが身近な「平和」をつくるためにも、

「自分の考えを伝え・相手を受け入れて・互いに心を開く」生活をしていきましょう！



校長クイズ

- 1 緑と平和を愛する野菜って何？
- 2 銃を壊してつくった楽器は何？

前号クイズの解答

- 1 ルーマニア
- 2 ワッフル